

I 実践

1 研究主題

豊かな人権感覚や人権意識を醸成する適切な教育活動に努め、学校の教育活動全体を通して人権教育の推進を図る。

(1) 主題設定の理由

本校は、全校児童32名という小規模校である。限られた人的環境の中で児童がより多くの人たちと人間関係を築けるようにするために、本校では、地域人材の活用を中心とした「地域重視」の指導に力を入れてきた。そうした試みが互いの良さを認め合い、互いに支え合う温かい人間関係の育成につながってきている。そこで今年度も、体験活動を通して、差別や偏見の心を持たず、人を思いやる優しい気持ちが自然に出てくる児童を育てていきたいと考え本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 実態を踏まえた人権教育の年間指導計画及び推進計画の改善・充実
- ② 誰とでも公平・公正に接しようとする生活態度の育成
- ③ 人権教育関係の資料の積極的な活用

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の展開

① 絆プロジェクトへの参加

今年度は、久慈中学区で絆プロジェクトを立ち上げ10月久慈中からバトンが渡され、その後校内でいじめについて話し合いが行われた。いじめについてのまとめや手形のポスターを作成、12月の絆フォーラムで発表した。

いじめと向き合う機会となり、久慈中学区全域で絆を深めることができた。



久慈中からの伝達式

② 学校の特色である創作和太鼓演奏

昨年創立100周年の記念行事で誕生した創作和太鼓に今年度も取り組んでいる。8月の教育振興大会や茨城DAY、坂下地区敬老会、市内音楽会、福祉のつどいで演奏を披露した。練習や準備は大変であるが、団結や協力を学び自信をつけることができた。



絆フォーラム

③ 地域との交流（高齢者との会食交流会・地域人材を生かした体験学習・運動会）

本校では、児童が地域の方々とふれ合う機会が多く設定されている行事が多い。中でも、地区と共同実施する運動会(全学年)、地域の高齢者との会食交流会(1・2・5年)や地域の人材を生かした体験学習(全学年)では、地域との連携を深めながら取り組んだ。



創作和太鼓「菜風蓮」

ア 高齢者との交流

地域の高齢者を学校に招き、交流会を実施している。6月に1・2・5年生が企画・運営を担当し、音楽の発表や昔遊びを通して高齢者とふれあうことができた。また、12月に近くにある介護施設を訪問して交流を持った。



会食交流会

イ 運動会

全校児童が32名という小規模校のため、5月の運動会は地域と共催という形式をとっている。児童は様々な種目を通して、地域の方々とふれあい、共に活動する楽しさを味わうことができた。

③ 異学年との交流活動（たてわり班の清掃活動等）

本校では、週に2回（水曜日・金曜日）の清掃活動をたてわり班で行っている。高学年が低学年の面倒をよくみながら清掃を行っている。また、ロング昼休み（東小沢っ子タイム、毎週火曜日）での集団遊びでも異学年交流が行われている。

④ あいさつ運動や募金活動

計画委員会の児童が中心となって「朝のあいさつ運動」を毎週水曜日・金曜日に昇降口で実施している。今年度は、11月のいばらき教育月間に合わせ、全児童を低中高の3グループに分け、あいさつ運動に取り組んだ。また、保健委員会を中心に緑の羽根・赤い羽根などの各種募金活動も積極的に取り組んだ。



あいさつ運動

(2) 人権に関する啓発活動の充実

① 人権作品展（メッセージ・標語・ポスターなど）への取り組みについて（7～11月）

人権意識を高めるための啓発活動に取り組んでいる。今年度は、人権に関する本の読み聞かせを行った上で人権に関する標語づくりに全校児童で取り組んだ。

② 人権学習（読み聞かせ）の実施

人権教育を意識した読み聞かせを定期的に実施した。押しつけではない自然な形で児童に人権意識が芽生えることを意識して取り組んだ。



「とべない蛍」
の読み聞かせ

(3) 人権意識を高めるための職員研修の充実

① 全職員で取り組む校内研修等

校内研修の時間や生徒指導の情報交換の中で、事例研修を行い教職員の人権意識を高めるようにした。

② 年間指導計画の見直し

「人権教育に関わる年間指導計画」を学年ごとに検討している。特に女性・子ども・高齢者・障害者・同和問題・東日本大震災等の人権侵害の見直しを継続して行っている。

(4) 人権コーナーの設置

本校では「人権コーナー」という名称では設置していないが、道徳的な内容を含んだ「こころのまど」を中央階段の下に設置し、学校行事に関して児童が励んだ事などを写真や児童の感想などを紹介し、人権教育の啓発活動を行っている。

3 成果

- (1) 地域との多くの交流や異学年交流を通して、好き嫌いにとらわれずに、誰に対しても公正・公平にふるまい、仲良く生活する態度を育てることができた。
- (2) 創作和太鼓の演奏活動や「あいさつ運動」などを通して、自分たちが地域の一員であるという児童の自覚を高めることができた。

II 今後の課題

- (1) 各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をよりいっそう充実させ、児童一人一人の人権意識のさらなる高揚を図るための取り組みを計画的・継続的に実践していきたい。
- (2) 児童が地域の一員であるという自覚をさらに高めていく手立てを意図的に展開していきたい。
- (3) 人権意識を高めるための職員研修を計画的・継続的に実施し、人権教育について共通の認識が持てるようにしていきたい。